

## 2021年度 後期・秋学期オンライン授業に関するアンケート結果概要（学部学生）

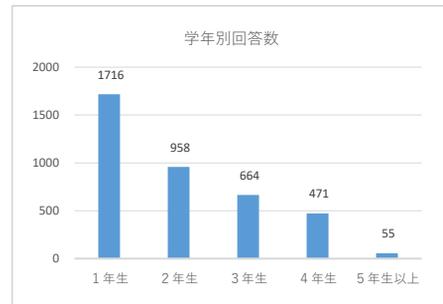
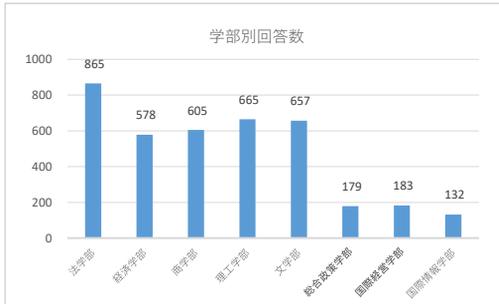
4回目となる「オンライン授業に関するアンケート」を実施しました。開始から丸2年を経て、オンライン授業が、授業形態の選択肢の一つとして定着してきたことが感じられる結果となりました。オンライン授業に特化したアンケートは今回が最後です。今後は、在学生アンケートや授業アンケートなどに設問を集約し、授業改善のためのご意見を伺ってまいります。引き続きご協力よろしくお願い致します。

【調査概要】・実施期間：2022年1月31日～2月15日

・対象：学部学生(平均回答時間/7分22秒)

・回答者数：3864人（調査対象者に占める回答者の割合：15.6%

(参考) 前回までの回答者割合 2021前期22.8%・2020年後期23.2%・前期40.2%

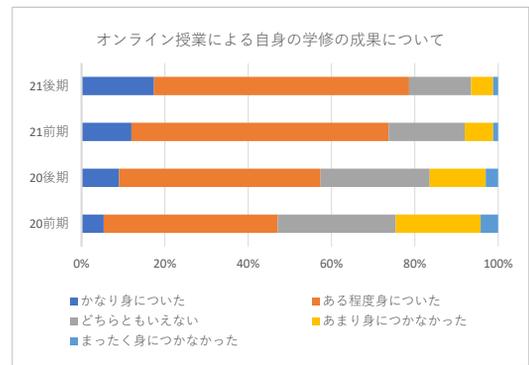
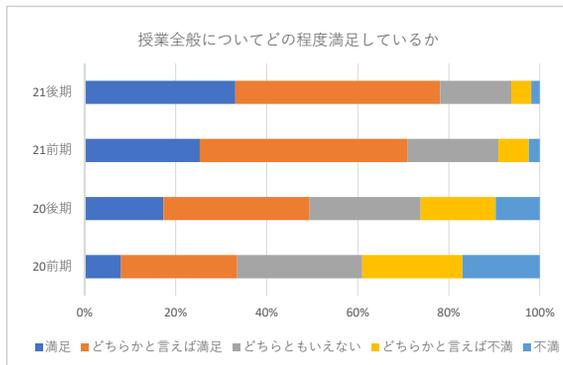


### UP! 授業満足度、学習成果4期連続UP

満足度、学習成果ともに肯定的回答の学生が約8割・前回からも5ポイントUP

「後期の授業全般についてどの程度満足しているか」という質問に対し「満足」「どちらかと言えば満足」と肯定的な回答した割合は、前回から7ポイント(71→78%)の増加。また「学修の成果について」という質問で「かなり身についた」「ある程度身についた」と肯定的に答えた学生の割合も前回から5ポイント増加(73.7→78.6%)し、どちらも4期連続で増加傾向となった。

教員・学生双方が新しい授業形態に慣れ、トラブルなどが減少したことなどで、コロナ禍以前と変わらない水準になってきていると思われる。

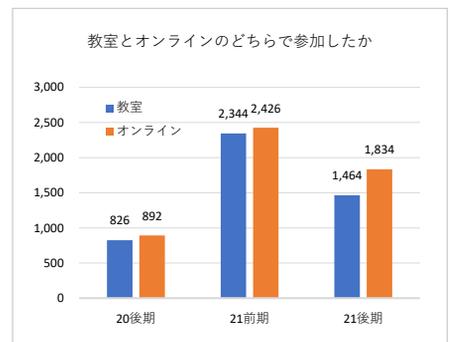


### DOWN ハイフレックスの対面参加減少

選択できても、オンラインを選ぶ人が増えている？

「ハイフレックス授業に、教室とオンラインどちらで参加したか」聞いた質問で、過去2回は両者にほぼ差が無かったのに対し、今回教室参加群が少ない。感染拡大を受けてオンライン希望者が増えたとも考えられるが、自由記述に下記のような「もともと対面希望なのに、教室参加者が少ないためオンラインにした」ことが伺える記述が多く見られた。

対面授業のメリット、良さを提供・享受するためには、一定以上の人数、もしくはすでにある程度醸成された人間関係が必要なかもしれない。悪循環で学期途中から教室参加者が減少していかないよう、何らかの枠組みや対策が必要か。



## 自由記述より

「一貫して対面授業を望んでいます、本当に望んでいるのは、単にキャンパスで授業を受けるのではなく、他の学生も来ていることです。他の人が来ない中1人だけキャンパスにいることには意味を感じません」(文学部2年生)

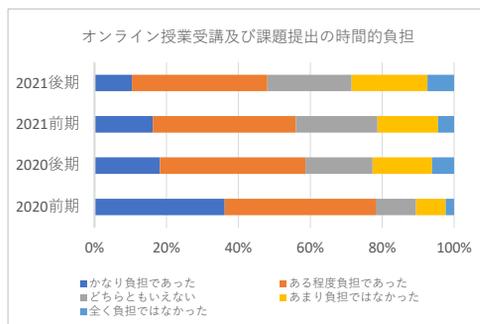
「一度だけ教室で参加したが、自分一人だけだったので参加しづらいと感じた。ハイフレックス授業の前後が対面授業だったので大学にいたことが多かったが、2回目以降は大学にいてもオンラインで参加した。」(法学部3年)

「教室で参加した人が少ない授業では、パソコンを利用してミーティングを行うため、教室に行くメリットを見いだせなかった。」(経済学部1年)

「ハイフレックス授業に対面で参加したが、メリットが感じられなかった。ある程度参加者がいないとコミュニケーションがとりにくい。今後ハイフレックス授業があっても、対面では参加しないと思う。」(国際経営学部1年生)

## 課題提出の負担感減少

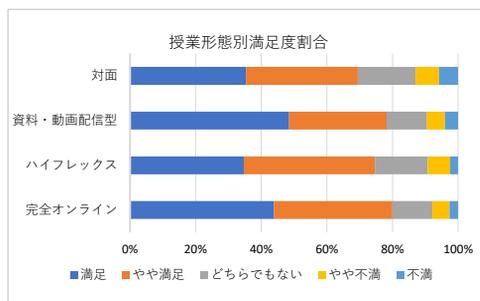
オンライン授業開始当初は課題の多さが問題になったが、回を重ねるごとに「かなり負担」「ある程度負担」と答える群は減少。今回初めて5割を下回った。先生方の課題量や締切に対する調整・配慮があったことが伺える。また、授業に関する学修時間は前回からさほど増減がないことから、学生本人の慣れもあるのかと思われる。



## 満足度低い「対面授業」

### 肯定的回答一番少ない「対面授業」

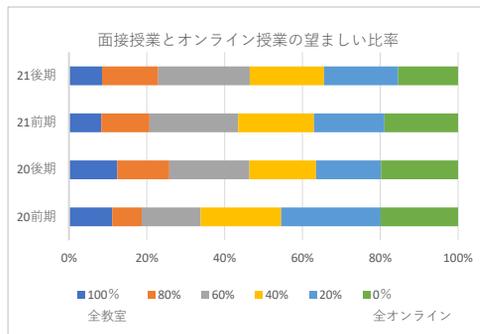
授業形態別の満足度をみると、満足・やや満足をあわせた肯定的回答が8割と一番多かったのは完全オンライン授業。次点は資料動画配信授業で、肯定的回答が7割を下回ったのは対面授業のみであった。(グラフは「体験しなかった」を除く)



### 「対面授業」望む声は変わらず

対面とオンライン授業の望ましい割合を聞いた設問では前期よりやや対面寄りへ微増。対面授業への希望が減少したわけではないようだ。

2年間のほとんどをオンライン授業で過ごした学生たちの、対面授業に対する期待値は高いと思われる。その分、さきの自由記述のようなこともあり、実際に受講した際の「思っていたのと違う」感が大きく、相対的に満足度が低くなっているのではないかと。



## 「原則対面」へ向けての課題

次年度は原則対面授業を行う方針が公開された。今の1.2年生はコロナ流行後に入学し、オンラインメインの大学生活だったため、慣れてきた生活リズムや環境がまた大きく変わることへの不安は大きいと思われる。また、オンラインの良さも実感しているため、対面に戻ることによるデメリットも感じるようで「授業全般についてのご意見」を聞いた自由記述欄に、下記のような意見が少なくない。対面授業が再開した際には、オンライン授業が始まった時と同じように、混乱や不満が出ることが予想される。丁寧なガイダンスやサポート体制の充実が望まれる。

## 自由記述より

「入学以来、ほぼオンライン授業しか経験していないので、いきなり全面対面はストレスが大きいと思うため、段階的な対面への移行を検討していただきたいです。」(国際情報学部1年)

「来年度全員を強制で対面授業に参加させる形にするのではなく、オンラインでも参加可能にしてほしい。たとえば他学部履修をして前の授業が終わるのが遅れても、オンラインで参加できるように、遅刻の心配がない点は非常に助かっていた。」(総合政策学部1年生)

「抽選科目の中には前期しか受けられない授業もあり、外れた場合次の学年になるまで受けられない。対面での受講者人数のみに絞るのではなく、抽選から漏れた学生にはハイフレックス授業などで受けられれば機会の損失をなくすことができるのではないかと思います。」(商学部1年生)

「教職課程の授業については、20時すぎまで学生をキャンパスに拘束するよりは、資料配布またはオンラインを活用して、教職課程に進みやすくしてほしい。全面対面などという安直な考えではなく、活用できる手段を考えて頂きたい。対面だけで1度しか聞けないより、復習もでき学習がスムーズです。」(理工学部2年生)